

2008年 4月 1日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2008年4月15日】

団体名: 特定非営利活動法人 薬物乱用防止教育協会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

小・中学校生徒を対象とした薬物乱用防止教育事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

現在は第三期覚せい剤乱用期であり、国民の約1.7%200万人が乱用経験ありといわれている。薬物関係のニュースが毎日のように報道され、毎年約400kgほどの覚せい剤が押収されているが、この量は約4万人の乱用者の需要をまかなう。しかも、警察庁公表資料によると、より簡便で青少年の薬物乱用を助長する錠剤状の合成麻薬は平成17年度、対前年比20%増の57万錠押収されている。

「全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査」によると、薬物乱用開始年齢はその大半が15～24歳とされ、また、薬物乱用のきっかけは、薬物に対する興味と知り合いからの乱用の誘いにある。日本国民の薬物乱用を将来的に防止していくためには、いまだ薬物乱用の誘惑を経験しない小・中学生に対し、伝染病予防のための予防接種と同様に、薬物(ドラッグ)・薬物乱用の恐ろしさについて効果的に教育していく必要がある。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

薬物乱用における男子と女子の立場には大きな違いがある。薬物(ドラッグ)のターゲットは、薬物(ドラッグ)による支配と搾取の対象、容易にお金を稼ぐことができる女子であり、薬物乱用を誘い乱用のきっかけとなる人物は多くの場合、知り合いの男性乱用者である。

このことを踏まえて、当協会では本年度より具体的で効果的な教育プログラムの開発を目指して、男子と女子を分けて講習をするプログラムを開発し、試験的に実施した。生徒からのアンケートと、学校からの評価から高い教育効果が認められ、好評であった。

来年度、本格的に実施するために、教材として使用している「薬物標本」と「啓発用パネル」を2セットに増やし、可能な限り、全ての教育機会で、男女別の講習を実施する。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

一般的な薬物乱用防止教育は、薬物乱用の健康面での害・社会的な害・犯罪という側面で行われる。しかし、薬物経験者のほとんどが、知り合いから誘われて、薬物乱用を開始することを考えると、薬物乱用の害だけでは乱用は防げない。そこで薬物乱用の害に加え、薬物乱用における男女の立場の違いを考え、女子には、知り合い～初対面の男性から勧められ・騙されて服用させられる危険性を、ロールプレイングを中心に体験させた。

男子には、自分自身が加害者になる可能性を示唆し、社会のルールを守ることを目的を、「些細なルールを破ると、慣れによってエスカレートする」「誰かがルールを破っている場面を見るだけで、自分もルールを破ってもかまわないという心理になる」ことを理解させ、先輩から薬物を勧められた場合の断りにくさをロールプレイングで体感させた。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

今年度、東京八王子市において小学校10校、中学校14校、その他2団体、計26回2,358名に対して教育活動を行い。生徒を対象とするすべての教育活動で、男女別の指導を行った。生徒の感想文や質問文から見て、丁寧な指導をすることにより、薬物乱用の誘惑に抵抗する力をつけることが出来るという感触を得ている。

平成19年度八王子市には、小学生約30,000人、中学生約13,500名が学んでおり、小学校時代に1回、中学校時代に1回、薬物乱用防止教育の機会があるとすると、延べ年間9,500名の生徒が受講する必要があるが、協会の活動は僅か24%をカバーできているに過ぎない。この活動を理解し、参加していただける方の協力を望みたい。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

特になし

